

授業の具体的展開例

T 「これはなんででしょう」クイズをするために、昨日は、どんな準備をしましたか。お話ししてください。

C クイズの問題を考えて、話すことを画用紙に書きました。

C クイズの答えの絵もかきました。

T そうでしたね。みなさんが持っている画用紙には、クイズを出すときに話す言葉が、もう、ちゃんと書いてあるのですね。では、その画用紙を持って、みんなの前に立ってクイズを出すとき、どのような話し方をしたらいいでしょう。今日は、そのことを考えていきましょう。

まず、隣の人と話してみましよう。

〈ペアで話し合い〉

T では、クイズを出すとき、どのようなことに気を付けて話したらいいでしょう。

C ゆっくり話します。

T なるほど。それは、なぜですか。

C 聞いている人がよく分かるようにするためです。

T そうですね。同じように考えていた人は、手を挙げてください。

〈挙手、数名〉

T では、今のこの他に気を付けることは、ありますか。

児童の発言が早く終わった場合は、重ねて質問して、言葉を引き出してくることも大切。

クイズをする場面を思い描いてから、話し方を考えられるようにすることで、知識ではなく、活用する力として意識させたい。

前時の振り返りでは、児童に問いかけて、児童自身に思い起こさせることが大切。そのことで学習の流れを意識できるようにする。

板書例

「これは、なんででしょう」クイズをしよう

○ もんだいをかながえる

○ クイズのことばをかながえる

○ がようしにかく

はなしかたをかながえる

ききかたをかながえる

れんしゅうする

ききかた

はなしかた

○ はなしている人を見る

○ だいなよきしつかりきく

○ うちのあたりをまわす

○ ゆっくりはなす

○ 目をみてはなす

※単元全体の活動計画を掲示し、終わった活動には「○」を付ける。

「活用」の力を育てるポイント

学習の見通しを持たせることを意識した指導が重要。自分が今、何をしているのか、どのような「ことばの力」を使っているのかを考えることで、何をどう「活用」するかがはっきりする。

本時の流れへ

単元の流れへ

評価問題

HOME